

(5) 東日本大震災における被害状況

平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災における被害状況をみると、被害が大きかった岩手県、宮城県、福島県の3県で収容された死亡者は平成30(2018)年2月28日までに15,825人にのぼり、検視等を終えて年齢が判明している15,763人のうち60歳以上の人は10,416人と66.1%を占めている(図1-2-4-18)

また、東日本大震災における震災関連死の死者^(注6)数は、平成29(2017)年9月30日時点で3,647人にのぼり、このうち66歳以上が3,233人と全体の88.6%を占めている。

(注6)「震災関連死の死者」とは、「東日本大震災による負傷の悪化等により亡くなられた方で、災害弔慰金の支給等に関する法律に基づき、当該災害弔慰金の支給対象となった方」と定義。(実際には支給されていない方も含む。)

5 研究開発等

ア インターネットを活用する人が増加

過去1年間にインターネットを利用したことがあるかについて、利用者の年齢階級別に6年前と比較すると、70~79歳が14.4ポイント増と最も大きく、次いで60~69歳が11.3ポイン

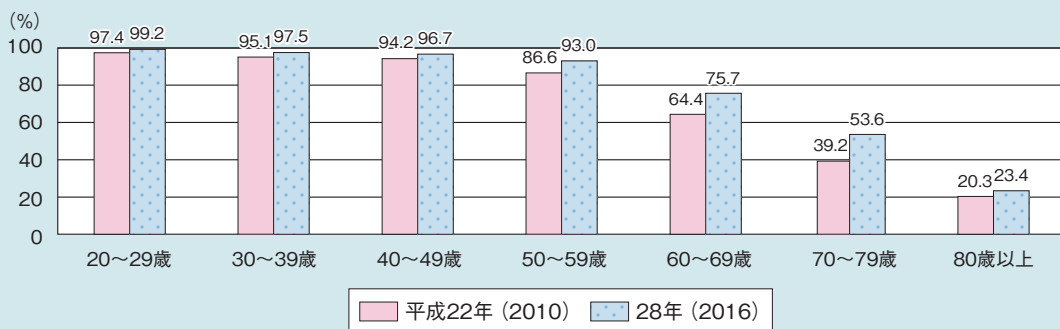
ト増などとなっており、インターネットを利用する60代、70代の者が増加傾向にある(図1-2-5-1)。

また、インターネットを利用したことがあると回答した65歳以上の者の使用頻度についてみると、半数近くの43.2%が「毎日少なくとも1回」は利用していると回答している(図1-2-5-2)。

イ インターネットで調べる医療・健康の情報

内閣府が全国の55歳以上の男女を対象に行った調査によると、医療や健康に関する情報をインターネットで調べることがあるか尋ねたところ、「病気について(病名や症状、処置方法)」の情報を得ている人が22.6%、「病院などの医療機関」が14.0%、「薬の効果や副作用」が13.6%となっている。また、インターネットで情報を調べると回答した人のうち、どの程度の情報を行動の根拠にしているかについてみると、「他の情報とあわせて判断し有用な情報であれば行動の根拠としている」が49.2%と最も多くなっている。ついで、「いずれの情報も参考程度で行動の根拠にはしない」が33.0%となっている。「ほぼ信用して行動の根拠にしている」については、14.1%となっている(図1-2-5-3)。

図1-2-5-1 利用者の年齢階級別インターネット利用率



資料：総務省「通信利用動向調査」
(注)無回答を除く

ウ 介護をする際に介護ロボットを利用したい人は59.8%、介護を受ける際に介護ロボットを利用してほしい人は65.1%

内閣府が行った調査によれば、介護をする際に、介護ロボットを利用したいと回答した人の割合は、「利用したい」(24.7%)と「どちらかといえば利用したい」(35.1%)と回答した人の割合をあわせると59.8%で、「利用したくない(小計)」(33.9%)と回答した人よりも多い。

また、介護を受ける際に介護ロボットを利用してほしいと回答した人の割合は、「利用してほしい」(35.1%)と「どちらかといえば利用してほしい」(30.0%)と回答した人の割合をあわせると65.1%で、「利用してほしくない(小計)」(29.3%)と回答した人よりも多い(図1-2-5-4)。

図1-2-5-2 インターネットの使用頻度(65歳以上のインターネット利用者)

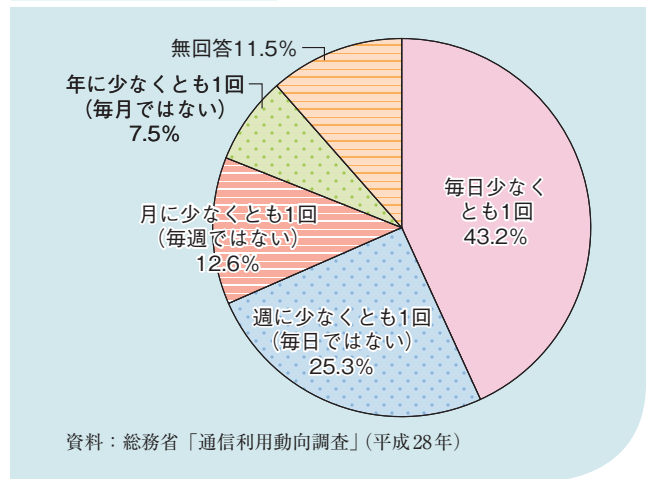


図1-2-5-3 インターネットで医療・健康についてどのような情報を得ているか また、インターネットで得た情報を行動の根拠にするか

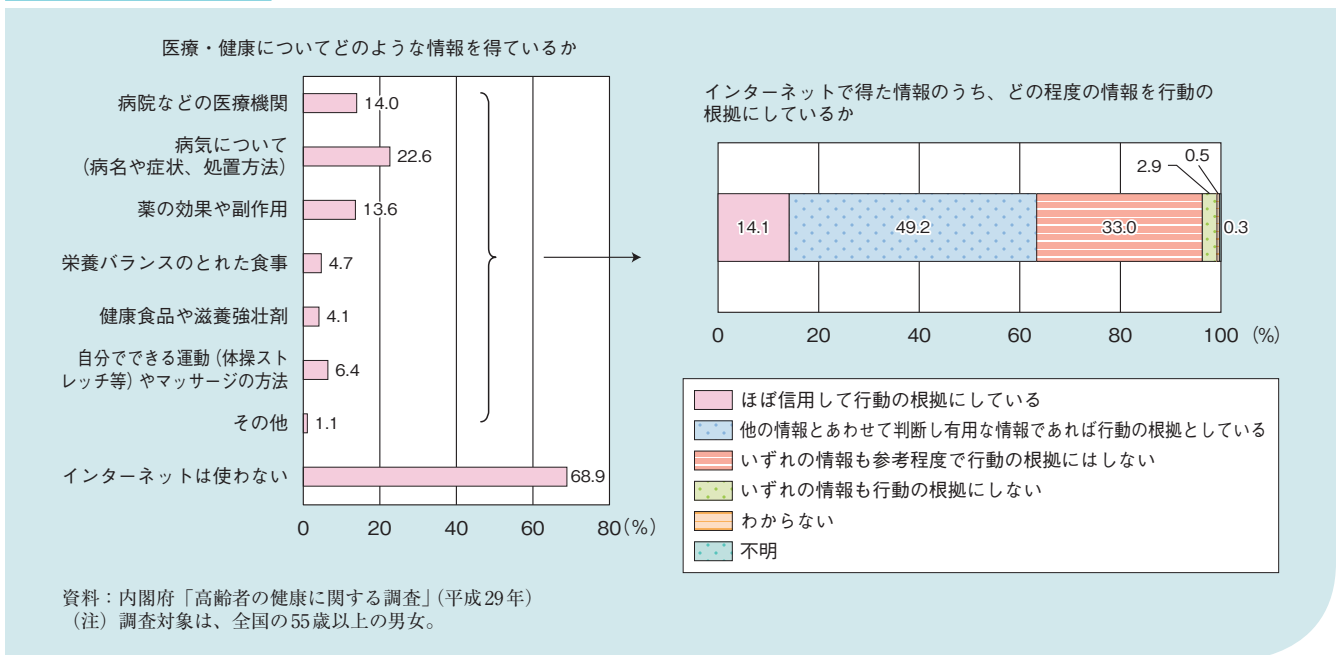
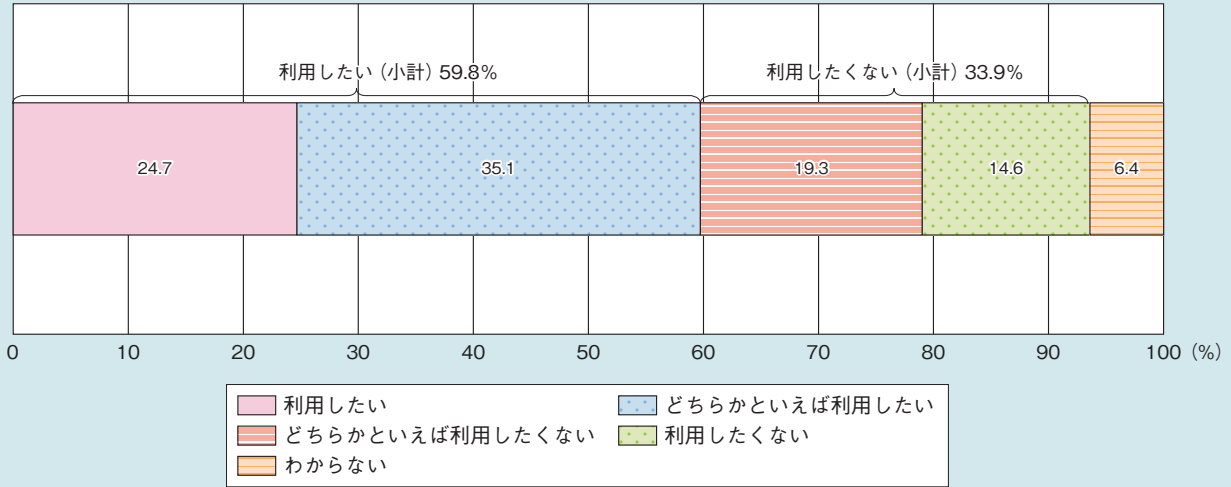
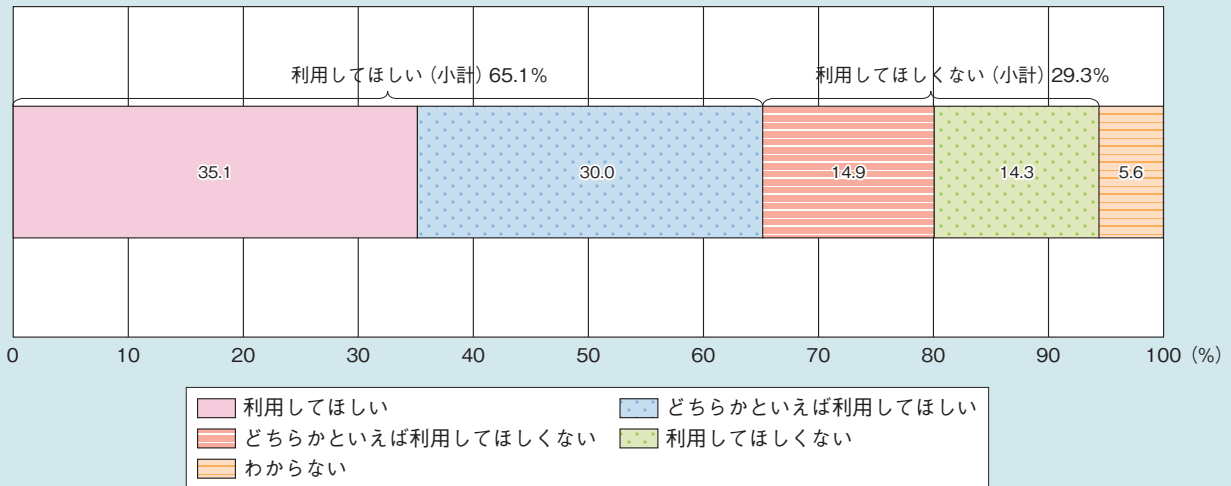


図1-2-5-4 介護をする際・受ける際の介護ロボット利用意向

○介護をする際



○介護を受ける際



資料：内閣府「介護ロボットに関する特別世論調査」(平成25年)
 (注) 調査対象は、全国20歳以上の日本国籍を有する者。